

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3149929号
(U3149929)

(45) 発行日 平成21年4月23日 (2009. 4. 23)

(24) 登録日 平成21年4月1日 (2009. 4. 1)

(51) Int. Cl.

F 1

B 4 2 D 15/02 (2006. 01)

B 4 2 D 15/02 5 O 1 E

B 6 5 D 27/00 (2006. 01)

B 6 5 D 27/00 K

B 6 5 D 79/00 (2006. 01)

B 6 5 D 79/00

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8601 (U2008-8601)
(22) 出願日 平成20年12月9日 (2008. 12. 9)(73) 実用新案権者 503294061
マイクロ印刷株式会社
岡山県岡山市神下4 4 0番地2
(72) 考案者 河原 聖子
岡山県岡山市津島東2-1-8-2

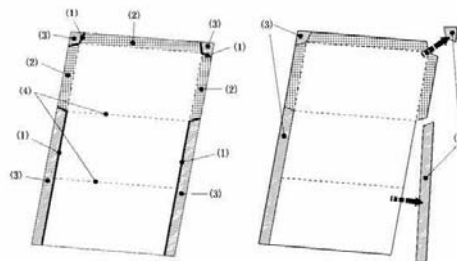
(54) 【考案の名称】 1枚の用紙を三つ折にしてできる簡易書簡

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】プリンターに対応した用紙により写真などを組み込んだ内容でもプリントアウトでき、不要部分をカットできるミシン目を入れることによって、封筒化することも簡易となり、又、開封時の切り取り線を変えることによって冊子になるので受取人も読みやすい書簡を提供する。

【解決手段】手書き、又はパソコンやプリンターを使って情報を組み込んだ後、不要部分をカットできるミシン目と、折り部分に押型又は切れにくいミシン目が入っていることを特徴とする1枚の用紙を三つ折にしてできる簡易書簡である。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

手書き、又はパソコンやプリンターを使って情報を組み込んだ後、不要部分をカットできるミシン目と、折り部分に押型又は切れにくいミシン目が入っていることを特徴とする1枚の用紙を三つ折にしてできる簡易書簡。

【請求項 2】

開封時に見開き4ページになることを特徴とする1枚の用紙を三つ折にしてできる簡易書簡。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】**

10

【0001】

この考案は、1枚の用紙からできる簡易書簡に関する。

【背景技術】**【0002】**

郵便局で扱われている簡易書簡(ミニレター)は25gまでならば写真のような薄い物を同封できる、図2のように型抜きされた1枚の用紙を三つ折にして60円で送れる封筒兼用の便箋である。

【0003】

簡易書簡(ミニレター)の他にも1枚の用紙を三つ折にして出来る書簡は存在する。(例えば特許文献1~4)

20

【特許文献1】特開平6-248743号公報

【特許文献2】特開平7-329458号公報

【特許文献3】特開平7-329459号公報

【特許文献4】特開平7-41003号公報

【0004】

特許文献5のように冊子になっている封筒がある。

【特許文献5】特開平6-329982号公報

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0005】**

30

しかしながら、以上の技術によれば、簡易書簡は、図2の(a)(b)(d)より、両面に書欄があり読み書き順序が明確に記されていないため、開封すると1枚の便箋になる書簡を開きながら受取人はどこから読めばいいのか戸惑う。また25g以内で同封出来るものは限られているが、図2の(a)(b)より簡易書簡は罫線がひいてあるうえ、構造上プリンターにうまく通すのは難しいため、写真などを組み込むのが効果的でない。企業のダイレクトメールなどには適していない。

【0006】

特許文献1~4では、パソコンやプリンターなどに適し、自由な内容を組み込むことが可能であるが、特許文献2~4は開封時には1枚の紙の状態を受取人はどこから読めばよいかわかりづらい。特許文献1では開封時に書簡が2分割される。

40

【0007】

特許文献5では、開封時は冊子の状態で読みやすいが、閉封前の形状も冊子の状態なのでプリンターに通すのは困難である。

【0008】

そこでこの考案は、受取人が読みやすく、多くの情報を自由に組み込むことの出来る多面的な用途に利用可能な封筒兼用便箋になる用紙を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】**【0009】**

以上の課題を解決するために、第一考案は、手書き、又はパソコンやプリンターを使って情報を組み込んだ後、不要部分をカットできるミシン目と、折り部分に押型又は切れに

50

くいミシン目が入っていることを特徴とする1枚の用紙を三つ折にしてできる簡易書簡。
また、第二考案は、開封時に見開き4ページになることを特徴とする1枚の用紙を三つ折にしてできる簡易書簡。

【考案の効果】

【0010】

第一考案によれば、両端のミシン目を切り取らなければ、プリンターに対応した形なので、パソコンを使ってたくさんの写真やイラストを入れ自由にアレンジしてプリントアウトでき、写真を同封しなくてよい。第二考案によれば、開いた際に見開きになっているので受取人が読みやすい。

【考案を実施するための最良の形態】

10

【0011】

この考案の一実施形態を、図1に示す。

用紙には、情報を記入し貼り付ける前に不要部分をカットできるミシン目と折り部分に押型又は切れにくいミシン目が入っている。

【0012】

図2(c)の簡易書簡の開封時の切り取り部分を図3(j)に変えることによって見開き4ページの書簡になる。

【0013】

「実施形態の効果」

この実施形態によれば、ミシン目を切り取らなければ、プリンターにも対応できる。書き込みが終われば、ミシン目にそって不要部分を切り取るのでハサミがいらぬ。折り部分には押型又は切れないミシン目が入っているので封筒の形にしやすい。

20

【0014】

1枚の用紙から出来る封筒兼用便箋なので封詰めの作業が軽減される。コスト削減にもなる。

【0015】

図3(j)の展開図より、1枚の用紙が冊子になるという意外性がある。図3(6)を切り取ることも出来、内容によりチケットや葉書を同封するのと同じ役割を果たすため、多様な利用が可能である。

【0016】

30

プリンターの普及により、個人宅での自由な作成も可能であり、既成のレターセットなどにはない斬新な手紙を提供できる。

【0017】

「他の実施形態」

図1の実施形態では、白紙の状態の用紙であったが、他の実施形態では、郵便枠や切取線などが先に印刷されているものでも良い。

【産業上の利用可能性】

【0018】

小ロットのダイレクトメールなど、自社での封詰め作業の軽減。結婚の報告や満中陰志、学校教材として今までにないものを提供できるという可能性が考えられる。

40

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】この考案の一実施形態を示す斜視図である。

【図2】この考案の元となる簡易書簡の説明である。

【図3】この考案の折り方と展開図である。

【符号の説明】

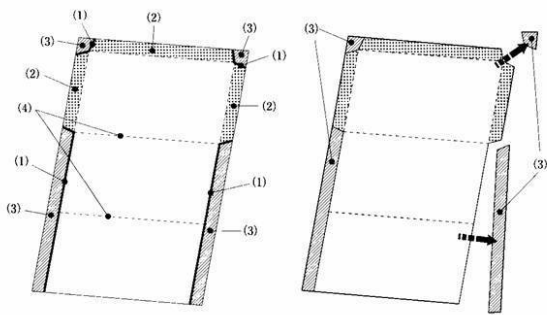
【0020】

- (1) ミシン目
- (2) のりしろ
- (3) 不要部分

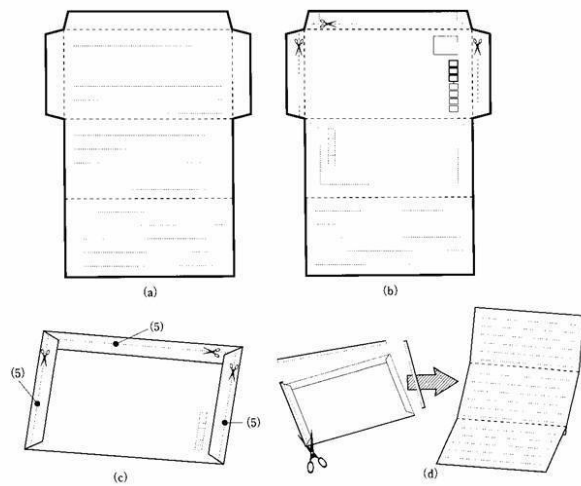
50

- (4) 折り部分の押型又は切れにくいミシン目
- (5) 切り取り線
- (6) 切り取り可能な部分

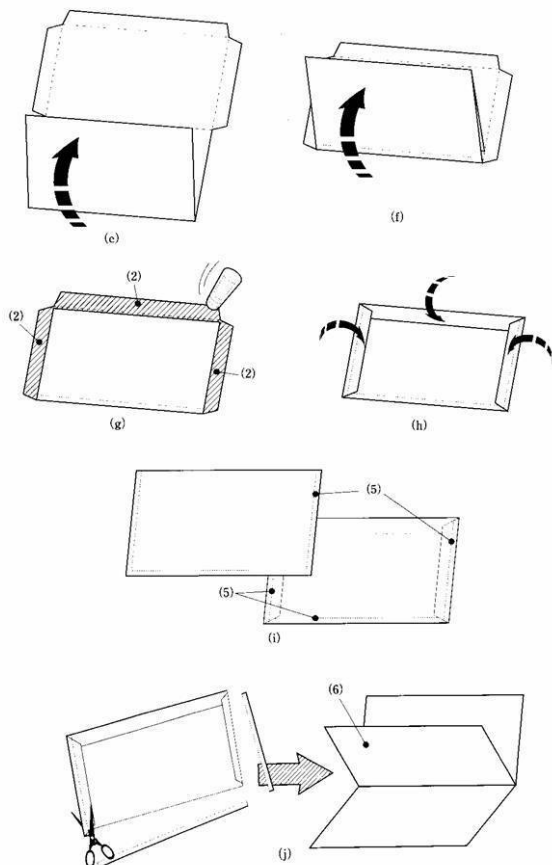
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【手続補正書】

【提出日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 2】

開封時に見開き 4 ページになることを特徴とする請求項 1 記載の簡易書簡。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

以上の課題を解決するために、第一考案は、手書き、又はパソコンやプリンターを使って情報を組み込んだ後、不要部分をカットできるミシン目と、折り部分に押型又は切れにくいミシン目入っていることを特徴とする1枚の用紙を三つ折りにしてできる簡易書簡。また、開封時に見開き4ページになることを特徴とする請求項1記載の簡易書簡である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

図2(c)の簡易書簡の開封時の切り取り部分を図3(i)に変えることによって見開き4ページの書簡になる。